

日本経済：全国消費者物価（2024年3月）

コアの鈍化傾向続く、今後は制度要因で一旦上昇へ

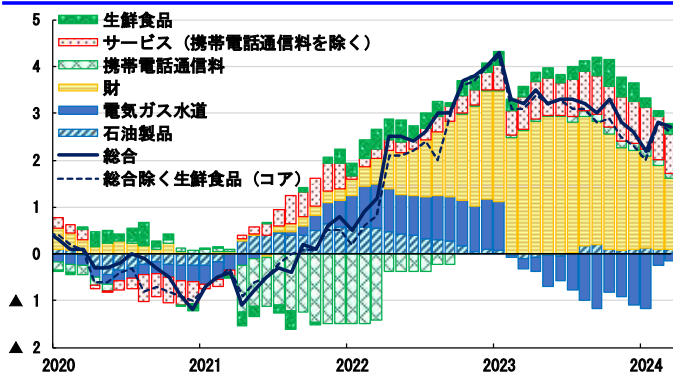
3月の消費者物価は、生鮮食品を除く総合（コア）で前年同月比+2.6%、生鮮食品とエネルギーを除く総合（コアコア）で+2.9%といずれも鈍化した。食料工業製品など財への価格転嫁は一服し、物価上昇率の鈍化傾向が続いている。今後は、5月から7月にかけて、再生可能エネルギー賦課金の値上げや補助金終了で電気・ガス代の上昇が予定され、コアは2%台後半で高止まりするだろう。8月以降は、再び鈍化傾向となるが、今春闘の高い賃上げ率を背景にサービス価格で値上がりが見込まれるため、年内にコアが2%を下回る可能性は低いだろう。

コア、コアコアともに鈍化

2024年3月の消費者物価指数（全国）は、生鮮食品を除く総合（コア）で前年同月比+2.6%と2月（+2.8%）から伸びが鈍化した（下左図）。また、生鮮食品とエネルギーを除く総合（コアコア）も+2.9%と2月（+3.2%）から伸びが縮小、昨年8月（+4.3%）をピークに物価上昇率の鈍化傾向が続いている。特に、食料工業製品や繊維製品、生活関連製品などの財では、値上げの動きが一服している。

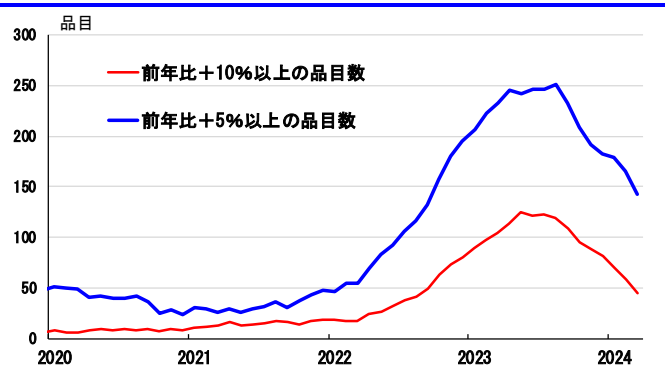
コアに採用されている品目のうち、上昇率の高い品目の数をみると（下右図）、前年比で5%以上伸びた品目数と10%以上伸びた品目数がいずれも減少し、価格転嫁の動きは落ち着く方向にあることが改めて確認された。

消費者物価の推移（前年同月比、%）



(出所)総務省「消費者物価指数」

前年比で上昇率の大きい品目数



(出所)総務省「消費者物価」をもとに伊藤忠総研作成

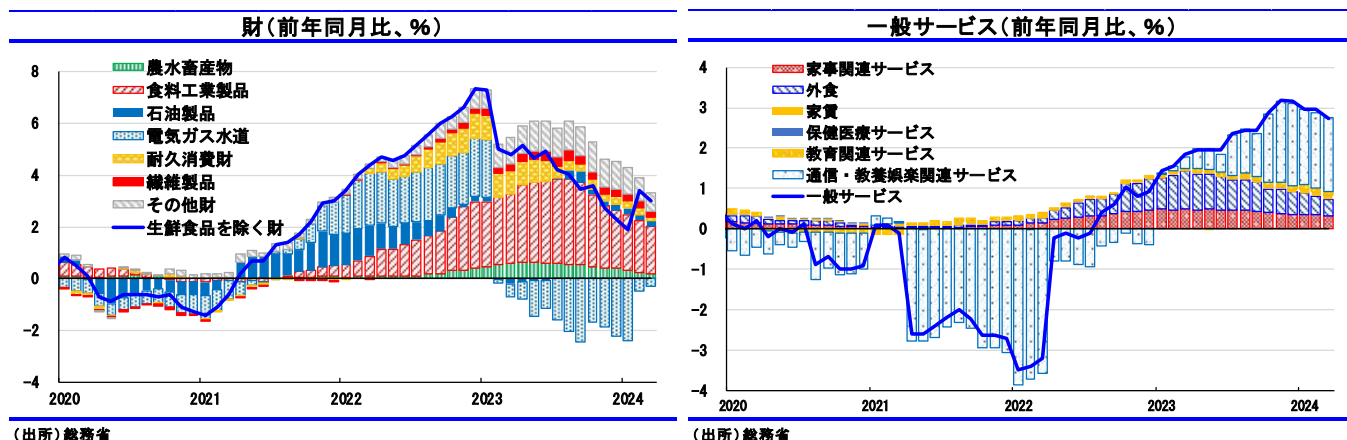
財で価格転嫁が一巡

コアの前年同月比を財・サービス別にみると、「財」（次頁左上図）は、3月に+3.0%と2月（+3.4%）から伸びが縮小した。先述の通り、食料工業製品や繊維製品、生活関連品などで価格転嫁の動きが落ち着いており、前年比の上昇率は鈍化傾向が続いている。一方、電気・ガス・水道代では、3月に▲2.6%と2月（▲4.3%）からマイナス幅を縮小した。これまでの燃料価格の上昇を背景に、電気やガスの価格が値上がりしている。

サービス分野のうち「一般サービス」（次頁右上図）は、3月は+2.7%と2月（+3.0%）から鈍化した。外本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、株式会社伊藤忠総研が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠総研ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

食や家事関連サービスでは、前年からの値上げの動きが一巡している。

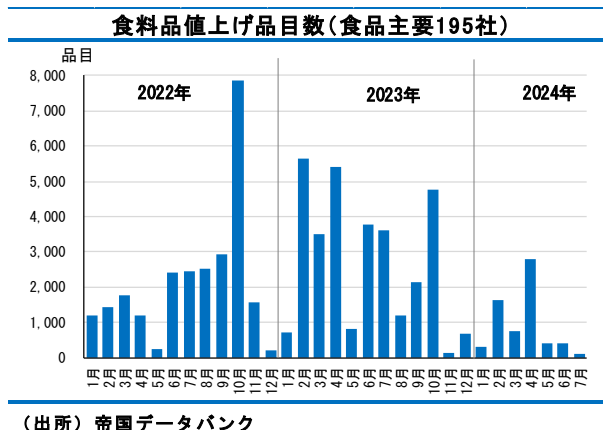
なお、サービス分野のうち「公共サービス」では、航空運賃で前年上昇の反動が出て、3月は▲0.1%と2月(0.0%)からマイナスに転化した。



コアは、7月にかけて一旦上昇

今後は、食料工業製品などの財では、価格転嫁が一巡する見込みである。一方、賃金上昇を背景にサービス価格で値上げが予想されることや、電気・ガス代で補助金が終了予定のため、コアは7月にかけて2%台後半で高止まりする可能性が高い。

まず、食料工業製品などの財では、昨年と比べると価格転嫁の動きは落ち着いている。帝国データバンクの『食品主要195社』価格改定動向調査によると(右図)、2024年1~7月までの値上げ予定品目数は6,433品目と、2023年1~7月の23,476品目と比べて大幅に減少している。



一方、サービスでは、賃金上昇を背景に値上げの動きが拡大している。価格改定が集中する4月には、牛井チェーンのすき屋が7%程度の値上げを実施し、午後10時以降は価格を7%加算する深夜料金を導入した¹。また、佐川急便は宅配便料金を7%程度引き上げ、ヤマト運輸も2%程度値上げした。さらに、今春闘では、企業の積極的な賃上げ姿勢がみられ、連合が4月18日に公表した第4回集計では、賃上げ率は+5.20%と5%越えの水準を維持している。仮に、賃上げ率が5%程度に着地すれば、毎月勤労統計の所定内給与(基本給)は3%強まで伸びを拡大し、サービス価格への一段の上昇圧力となるだろう。

また、エネルギーでは、5月から7月にかけて電気・ガス代で値上げが予定されている。再生可能エネルギー賦課金が5月(4月使用分、5月検針分)²に一般家庭で7~8%程度値上がりするほか、6月(5月使用分、6月検針分)には政府の補助金が半減、7月(6月使用分、7月検針分)には補助金が終了する予定である。仮に電気・ガス代への補助金の再延長がなければ、エネルギー価格は5月に前年比でプラスに転じ、コアを押し上げるだろう。

¹ 大手牛井チェーンでは、初めての深夜料金導入となった。

² CPIの電気・ガス代は、検針時点で指数に反映される。

以上を踏まえると、先述の通り、コアの上昇率は7月にかけて2%台後半で高止まりする可能性が高い。8月以降は再び鈍化傾向となるが、今春闘の強い賃上げを踏まえると、サービス価格で値上げが一段と広がることが予想され、年内にコアが2%を下回る可能性は低いだらう。